

## 教員活動状況報告書

提出日：令和 6年 2月 28日

所 属：獣医学部 獣医学科

氏 名：志賀崇徳 職位：助教

役 職：

### I ティーチング・ポートフォリオ

#### 1. 教育の責任（教育活動の範囲）

実習において、病理学の講義で学んだ病変や疾患を実習組織標本観察や病理解剖で経験させることで、獣医学における重要な疾患を総合的に理解できるような教育を行う。研究室では、卒業論文の作成を指導し、研究計画の立案、実験遂行、データ解析を通して、科学的思考力を培い、成果を他者にわかりやすく発表する能力を伸ばせるように指導する。

科目名	学科・専攻	必，選， 自	配当年次	受講者数
獣医病理学実習	獣医学科	必	4	149
卒業論文	獣医学科	必	6	3
総合獣医学	獣医学科	必	6	166

#### 2. 教育の理念（育てたい学生像，あり方，信念）

獣医師には、動物疾病の診断と治療、動物生産、公衆衛生、医薬品の開発、生命科学研究など、様々な背景や役割が存在する。したがって、様々な立場の獣医師が高度な専門知識を共有し、大学で培った科学的思考力を活かして、経験したことの無い問題にも果敢に取り組むことが望まれる。

実習では、獣医師として必要な獣医病理学の知識・技術を持つことに加え、それを応用して自ら考え診断する実践能力を持った獣医師を養成することを理念とする。

研究室では、症例の病理診断や卒業論文研究を通じて、研究計画の立案、計画的な遂行、データの解析、考察を主体的に行う能力を持った人材を養成することを理念とする。

#### 3. 教育の方法（理念を実現するための考え方，方法）

実習では、豚、鶏の病理解剖を少人数で班ごとに実施する機会を設け、その病理検査、病原体検査の結果を授業内で解説する。肉眼所見、組織所見、病原体検査結果を関連づけて学ぶことで、獣医学における重要な疾患を総合的に理解することを目標としている。病理組織標本の観察では、スケッチと写真を組み合わせることにより、診断のポイントとなる所見を抜き出し、説明できるようになることを目標としている。

研究室では、卒業論文の実験計画や結果について自らの考えを説明する機会を設け、教員や他学生とのディスカッション、進捗報告、学会発表を通じて、科学的思考力、プレゼ

ンテーション能力を養うことを目標としている。

#### アクティブラーニングについての取組

実習では、豚、鶏の病理解剖を少人数で班ごとに実施し、後日解剖した個体の病理組織標本を班ごとに観察することで、産業動物疾病の病理診断を経験する機会をつくった。後述するが、今後は犬、猫の病理解剖実習を取り入れることで、小動物臨床で遭遇する様々な疾患を診断する機会をつくりたい。

#### ICT の教育への活用

実習では、病理組織標本のバーチャルスライドを疾病解説に利用した。また、学理を用いてオンデマンド型の動画配信を実施し、予習、復習のため、常時動画ファイルを視聴できるようにした。さらに授業の理解度を把握するため、Google フォームを用いて小テストを毎週実施した。後述するが、今後は病理解剖の VR 撮影を実施して、教育コンテンツの充実をはかる予定である。

#### 4. 教育方法の改善の取組（授業改善の活動）

※A（十分実施している） B（実施しているが十分でない） C（うまく取り組めていない）

##### ①教育（授業、実習）の創意工夫（A）

犬、猫の病理解剖は検体数が少ないため、これまでの実習ではほとんど実施できず、大学基準協会による獣医学教育評価においてもこの点を指摘されていた。2023 年度は、犬、猫の病理解剖のストーリーミング動画教材、360 度動画コンテンツを作製し、獣医病理学実習を受講した 4 年次学生に供覧した。今後は希望者に実際の病理解剖を見学する機会を設ける予定である。

##### ②学生の理解度の把握（A）

理解度を把握するため、毎回の講義で小テストを実施している。正解率の低い問題について次回講義時に解説した。2023 年度は、実習後期の最終回に鏡検試験を実施し、病理組織所見の理解度を把握した。

##### ③学生の自学自習を促すための工夫（A）

講義資料をできるだけ早く掲示し、自学自習のための動画ファイル教材を提供した。これらは復習用に常時閲覧可能とした。2022 年度前期の学生授業評価では、「予習動画が事前に出ていて予習がしやすかった」、「動画が見返せるのが良かった」、「時間外学習ができた」など、良い評価を受けた。

##### ④学生とのコミュニケーション(質問への対応等)（A）

実習中に、教員、ティーティングアシスタントが教室内を巡回し声をかけることで、質問しやすい環境を整備した。2022 年度前期の学生授業評価では、「先生に質問しやすく、疑問をすぐ解決できた」、「先生が気持ちよく疑問に答えてくれるので、質問のハードルが低くありがたかったし、勉強になった」など、良い評価を受けた。

##### ⑤双方向授業への工夫（A）

質問だけでなく、実習への要望など、学生が積極的に発言できる環境を整備している。

⑥国家試験対策としてどのような取組をしましたか。

実習では、授業内に観察する標本の疾病に関連する国家試験の問題を紹介し、その疾病に関する知識の重要性を強調した。2023年度は、総合獣医学の病理学総論を担当し、病理総論範囲の出題傾向の解析とそれに基づく勉強法について学生に指導した。

## 5. 学生授業評価

①授業評価の結果をどのように授業に反映させましたか。

2021年度の授業評価では、一部の実習組織標本が染色の経年劣化により、観察しづらいとの意見があった。そこで、2022年度は、狂犬病、鶏痘など、特に重要な疾患の実習組織標本を再染色した。

また、以前より犬猫の病理解剖に対する希望があったため、2023年度は、犬、猫の病理解剖のストリーミング動画教材、360度動画コンテンツを作製、獣医病理学実習を受講した4年次学生に供覧し、Google フォームを用いたアンケートを実施した。

②①の結果はどうでしたか。

再染色した実習組織標本については、観察やスケッチがしやすいと、良い評価を受けた。その他の実習組織標本についても再染色してほしいとの要望があった。

Google フォームを用いたアンケートにおいて、「動画を視聴して、犬、猫の病理解剖について理解できましたか？」という質問では、75名(55.1%)が「大体理解した」、60名(44.1%)が「よく理解した」、1名(0.7%)が「難しくてわからなかった」と回答した。また、「ストリーミング動画に加えて、360度動画を視聴することで、犬猫の病理解剖について理解は深まると感じますか？」という質問では、128名(88.9%)が「深まると思う」、14名(9.7%)が「どちらともいえない」、2名(1.4%)が「深まるとは思わない」と回答し、概ね好評であった。

③②を踏まえて次年度はどのように取組めますか。

次年度の実習に向けて、さらに、実習組織標本の再作成、再染色を実施している。また、疾病解説に利用する病理組織標本のバーチャルスライドの充実をはかる予定である。

## 6. 学生の学修成果

①学生の成績向上に資する取組を何か考えていますか。

発展的な課題として、実習時間外にも病理組織標本を観察できるような環境を整備できないか検討したい。具体的には、バーチャルスライドとクラウドシステムを活用して、自由な時間に病理組織標本を観察できるシステムが導入できないか検討したい。

②教育活動によって得られた学生の成果及び学生・第三者からの評価

獣医病理学実習は、2021年度のグッドティーチングを受賞した。また、2022年度前期の学生授業評価では、アンケートに回答した107人中84人が「(授業が総合的に)非常に魅力的だった」を選択し、コメントでも授業について好意的なものが多かった。病理解剖実習の改善の取り組みは、2022年度麻布大学教育改善プログラムに採択された。

## 7. 指導力向上のための取組 (FD 研究会参加状況)

可能な限り研修に参加した。  
参加できない場合は動画を後日視聴した。

#### **8. 今後の目標（理念の実現に向かう今後のマイルストーン）**

短期的には、実習において学生の授業理解度を高めるように努めたい。  
長期的には、専門家としての実践能力を持つ人材を育成するため、病理解剖実習の改善に貢献したい。

#### **9. 添付資料（根拠資料）（※）資料名のみ**

- ・ シラバス
- ・ 2022 年度麻布大学教育改善プログラム
- ・ 授業評価